

# 充実の授業 外部講師に学ぶ

## 音更の小中学校

## 町がマッチング 413講座



自作の熱気球を飛ばす児童ら＝5日

【音更】町内の小中学校が民間企業やNPO法人などから講師を招いて授業を行う「地域学校協働活動」が好調だ。昨年4月にスタートし、今年1月末時点で413の講座を実施。雅楽や熱気球など多彩な内容で、学校関係者からも「単独ではなかなかできない」と好評だ。

音更・東士幌小には今月5日、NPO法人教育支援協会北海道(帯広)が講師を派遣し、体育館で科学実験の講座を開いた。児童が透明な大型ビニール袋を使い、火で温めた空気を動力に自作の熱気球を飛ばした。

4年の水上翔汰朗さん(10)らが、どうすれば熱気球が早く上がるかを考えて試すなど楽しんだ。同校の大石倫之教頭(49)は「町が学校と外部講師をマッチングしてくれるので、学校単

独では難しい授業もできるようになった」と話す。

講座は川下り体験や草木染、雅楽演奏会やサケの生態観察など幅広く、詐欺・不審者対策といった防犯講座もそろえる。成人年齢の18歳への引き下げを踏まえ、町選挙管理委員会の模擬選挙や消費者教育など、全ての小中学校で一斉実施する講座もある。道教委は音更町の取り組み事例について「かなり充実している」と話す。

町は2022年に担当課を設置。学校から要望を聞き取る一方で、主に町内や帯広市の民間事業者、美術館などに知識や経験が豊富な講師を依頼する。現在、97の個人や団体を登録し、名簿も作成。学校の要望に応じてマッチングしている。

日程調整などは町教委が担うため、教職員の負担減にもつながるといふ。町の福地隆教育長は「学校教育と生涯学習を融合した取り組みで、地域と学校両方に良い効果がある。今後も継続したい」と話している。

(関山大樹)